

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在では独自の理念を掲げたサービスの提供は行っていないが、地域密着型以降、徐々に地元の入居者様が増えつつあります。自然にご家族も含め馴染みの関係が出来やすく入居前の様子が見やすくなって来ている様な気がします。地域の縮図が垣間見られるようです。	○	地域密着型の利点をもっと引き出して、家族をも巻き込んで入居者様が楽しく安心して暮らし続けていただけるよう取り組んでいきたいと思っています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念「受容」はもちろんの事、職員一人一人のケア理念、更に仕事(認知症介護)に対する気持ちの持ち方等については、毎月の検討会議や必要時に課題として話し合っており入居者様の尊厳を第一とし、より良いケアを提供出来るように取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が来居された時等に、地域密着型になってからの利点等についてお話をさせて頂く事はありますが理念を掲げた取り組みは行っていません。	○	核となる理念を構築し入居者様、ご家族様が安心して暮らしていく事が出来るように取り組んでいきたいと思っています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件の兼ね合いもあって近隣の皆様とお付き合いを持つことが少ない中で、毎朝の散歩の時に僅かな方々とお話をさせていただいたり、手作りのおやつをお持ちしたり、施設の方にも立ち寄って下さるよう声かけをする等の努力をしています。	○	まだまだ努力が足りないせいか、施設の方に立ち寄って頂けるまでのお付き合いに発展しない状況が続いています。今後も粘り強く努力していきたいと考えています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	過去に2度程地域のゲートボール大会に参加、見学した事があったり毎年行われるハーリー戦に職員が参加、入居者様は見学をさせて頂いております。	○	立地条件もありますが、もっと積極的に地域に出かけて行く等の努力に努めていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	これまで一度も行った事が無く今後の課題として取り組んでいかなければと考えています。	○	職員と話し合いを持って、年間事業計画に乗せていく等の努力をしなければと考えます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を活かして改善すべき点、出来る事は改善をする努力をしてきました。		職員が個々で自己評価を行う事の意義を各々が大切な事である事を理解しています。日々のケアを振り返ったり、大事な課題に気づき改善に向け皆で取り組んでいく事ができます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係機関代表、御家族代表、入居者代表が参加してグループホームの現状について、行事報告、地域の情報交換を行う事ができています。	○	2ヶ月に1回実施する事が出来てませんので今後確実に行的けるように取り組んでいきたいと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	此れまでこのような取り組みは行ってきませんでした。	○	自治体との連携を図れるよう働きかけていきたいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修を受けましたがそれについて職員間で細かく話し合ったと言う事はありませんでした。	○	管理者が権利擁護についてもっと知識を高め職員間で学習できるように努めたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待があってはならない事を各々の職員は十分に認識しています。当施設では毎日入浴となっています。担当職員が傷やあざの確認を細かく行っていますので虐待が見過ごされるような事は決してありません。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族の方と十分な時間を取って疑問な点を伺いながら説明をさせて頂き理解を得て、契約を交わしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日ごろから利用者様の声は大切に受け止めております。利用者様の意見や要望については、即対応できる事はその日の内に、全体で話し合う必要がある場合には毎月のケース検討会議で話し合い具体的な取り組みまで行っています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康面に関しては著変時、早急に報告をし状態に応じて、病院受診を依頼したり、暫く様子を見たりと言う判断を取っています。御家族の面会も多く日常的な変化はその都度詳細に報告を行っています。金銭管理については毎日財布の残金を確認、日誌に記録、買い物後レシートを日誌に貼り、御家族へ報告、又御家族からも今日は幾ら小遣いを持たせてます吗と言う報告をお願いしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付票、ポスター、ポスト等玄関に設置して、入居時のオリエンテーションの時、又御家族及び面会者が来られた時に説明をさせて頂いて居ります。御家族の意見が私たちのケアの向上に繋がる事もお話をさせて頂いています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で課題を出し合って十分に話し合いをもって改善できる事から順をおって取り組んでいます。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	最も必要な時間帯にパート職員を配置して、入居者様や職員がゆったりとした動きが出来るようにしています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	此れまでに、職員の入れ替えは殆どありませんでしたので入居者様は安心して暮らして頂いておられるものと思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制ができています。それを持ち帰って伝達研修を行い日々のケアに活かせるようにしております。	○	段階に応じた職員育成の為の計画にはなっていないので、今後は法人の柱となるような取り組みが必要と思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やワーカー会議に参加その中で情報交換が持て、毎月の会議で報告会をもっています。他の施設の良いところはケアに取り入れる等参考にしています。	○	近隣のグループホームとの交流が持てるように今後取り組んでいきたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会議で課題を出し合って、仕事がしやすいような働きかけは行っていますが、精神的なストレス解消とまでにはなっていないと思います。	○	私たちの仕事は自分の気持ちはさて置き入居者様のお声にみみを傾け、行動を見極めて安心して暮らしていただけるような支援をしなければなりません。働く職員の精神衛生が良い状態出なければ良いケアは出来ません。各々の仕事に対する気持ちの持ち方も大きく影響すると思いますが、職員のストレスを少しでも軽減して楽しく仕事が出来るように、時には全員でテーブルを囲み雑談等が出来るようになれば
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	園内外の研修に参加、気持ちを高めより良いケアに取り組めるようにしています。		でも軽減できるように、時には皆でテーブルを囲み雑談等ができるようにする事も今後検討が必要であると思います。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の実調で訪問させて頂いた時、十分に時間を取ってお話を伺ってますと、現状のお気持ちが伝わってくる事を感じます。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記に同じですが、実調時にはご本人、御家族交えて良くお話を伺っていますと、どちらも大変である事がわかります。特に御家族は精神的な疲れを強く感じる事もあります。一時でも気持ちを共有する事が出来れば御家族も楽な気持ちになるのではと言う思いで訪問をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの事例で、実調に伺って見て、ご本人のお気持ちを伺い、その動きを見、御家族のお話を伺った結果、まだ充分に在宅での生活が可能であり、ご本人が一番それを望まれている事が分かりましたので当面通所介護やショートステイを利用しながら頑張ってくださいよう相談した事があります。一年後に入居となりました。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全員、ご本人の意思確認を取る事はなかなか難しいところですが、ケースによってはご本人がどのような所か見て見たいと言われ見学後に入居となったケースや施設側から一日体験を促した後家族と一緒に一日過ごされて入居となったケースもありました。安心して入居して頂く為今後も御家族、ご本人とも相談をしながら色々な事が工夫できると思います。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホーム全体の動きや、感じとしては共に過ごし、共に感じ気持ちの共有がかなり上限にあると思います。毎朝の散歩や回想法の時間帯は入居者様の過去の暮らしや現在の思いをうかがい見ることが出来ます。ふとした一言、又何も語らずともその仕草から多くの事を学ばせて頂き、心から湧き上がる大きな喜びを与えて頂いて感謝で一杯になり一日を終える日もあります。	○	介護の現場は実際には大変です。どのような仕事もそうであるようにやって見て初めて良いところ、大変な事を知る事が出来ると思います。理念である「受容」を一人一人が頭に入れて日々支援をしていると思いますがグループホームでは自分では置き入居者の声を聞き入れ、共に動くが優先される場所です。懸命になればストレスも溜まります、少しでも心安らぐ環境作りを努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の身体状況、日常的な変化等可能な限り細かくお伝えしています。特に健康面に関しては受診をお願いし、その時の状態と一緒に把握して連絡を取り合って回復を共に喜びあっています。又諸行事等には必ずご家族も一緒に参加して頂き入居者様も満面の笑顔になります。	○	もう一頑張りしたいところです。9名の入居者様の御家族を更に巻き込んでいけばもっと楽しい施設作りになると思います。努力していきたいと思っています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の暮らしの中で、なかなか難しい問題となって出現する事があります。自宅でもさぞかし大変だった事が何われ御家族に様子を尋ねるとやっぱり・・・と、その問題を一緒に解決し穏やかに過ごされるお姿を見て御家族も離れていても安心して生活する事ができると思います。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームが大切にしてきた事の一つです。入院者が出たら皆でお見舞いに行きます。転居者や退去者がでたら食事持参で一緒にお昼を摂り、遠でになりますドライブがてら面会にいけます。ご逝去の時には全員でお焼香に行きました。故郷訪問をして知人の方とお会いする等の取り組みをしています。今後も大切に考えていきたいと思っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的に入居者様は日中食堂に居られる事が殆どです、中には若い頃からの知り合いだったり、又同じ部落出身だったり、すごく仲良く話していたかと思うと次の瞬間激しい口論になる、グループホームは自分らしさを出し続けられる場所なのでそれぞれの個性を思いっきり出し合っています。見守りながら良い関係作りの支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	30番に同じですが、退去御も入居者様全員をお連れして面会にいき元気な御様子を見て皆で喜び合い、御家族の方にも電話で様子を伺ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の皆様は全員の方々々が本当は住みなれた家で暮らしたい事を確実に望まれていると思います。認知の病になられ自分の思いを口に出して表現出来なくなっても思いがけない一言、不思議な行動にその思いが見て取られます。可能な限りその時のお声を大切にし耳を傾け御本人が満足頂けるよう支援させて頂いております。	○	グループホームで働く私たちに与えられた一番の課題と思っております。一人一人が入居者様の思いを共有できた場合安心して楽しく暮らせる場所(家)になると思います。私たち職員の精神衛生が入居者様の暮らしに反映されます、これも又難しい課題ですが私たちが気持ちよく、働き易い職場作りの努力を続けていきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で詳細にアセスメントを行っています。入居の際には、慣れ親しんだ家具や楽器、衣類等を持って来て頂く事で少しでも安心して頂ける事を御家族にお話しています。実調の結果を職員全員で検討、把握して受け入れの準備に掛かります。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活で支援している(毎日のバイタルチェック、毎日入浴、散歩、パワーリハビリ、食事の手伝い等)事を観察、申し送り、記録、会議での検討等をする事で把握できていると思います。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題を上げ会議で十分に話し合い、御家族の協力を得ながら御本人がより良く暮らしていただける為の計画を立てています。	○	会議に必ず御家族が参加する事が少ないので、全員の御家族の声が介護計画に反映できるように取り組んでいきたいと思っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	左記の通り、現状に即した介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を設け、ケアチェックを行い、その日の出来事、変化等を毎朝申し送りし、情報を共有会議で話しあって介護計画の見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	学習療法やパワーリハビリテーションは御本人のADLの低下を予防し、認知症の進行も予防できる、まさに支援の大きな柱になっていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や婦人部で構成されている団体の慰問を受けたり、小中学生の職場体験学習等で交流を持っています。	○	このような期会が少ないので入居者の皆様が地域の方々と触れ合う事が多く持てるように積極的に地域に出かけて行くよう努力をしたいと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	此れまで、他のサービスを利用する為の支援を行った事例がありません。	○	御本人、御家族の意向を伺い必要性があれば検討したいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	此れまで、このような働きはおこなっていません。	○	管理者がもっと見識を高め必要とあれば検討したいと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が此れまで行かれていた医療機関で、安心して受診が出来るように又御家族も同意され、御家族の協力、対応で、適切に支援を行っています。必要に応じて施設対応で受診に行く場合もあります。Drと直接相談をさせて頂く事もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居間もない方のケースで左記の支援を現在も継続しながら状況の変化を観ているところです。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており、日常の健康管理、医療面での支援が行われています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、定期的に訪院し病状の確認を行っています。訪院の際には必ず主治医、及びナースにお話を伺い早期退院が出来るよう働きかけています。時にはケースワークと連絡を取って退院に向けて相談をする事もあります。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末ケアを行う体制ができていません。	○	今後は必要な課題である為体制作りの検討が必要と思います。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は終末ケアを行う体制ができていません。	○	今後は必要な課題である為体制作りの検討が必要と思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のグループホームへ転居の事例がありました。御家族とも良く話し合い、又転居先の管理者ともお話をし書面で情報を提供し少しでも安心した暮らしが出来るよう支援したケースがあります。転居後も入居者様をお連れし面会に伺いました。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様に対しての言葉使いは、十分な注意を払うようにしています。丁寧な対応を心がけています。個人情報の取り扱いにも十分な配慮を行っています。	○	時々言葉使いが粗かったりと言う場面が見られる事もあるので皆で意識をもってケアに当たりたいと思います。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で常にその行動や、表現等気に掛かったとき、そっと寄り添い思いを伺うようにしています。又毎朝の回想法の中でどのような事がしたいか、行きたい所、何を食いたいかなど等良く伺って決めるようにしています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは日課(入浴、食事、散歩、回想法、手伝い等)となっているが各々のペースに合わせた動きとなっています。例えばゆっくり眠って、遅い朝食、今は風呂に入りたくないから後で、ちょっと眠くなったから、部屋で休息、散歩のコースを本人が決める、今日は手伝いをしたくないからお休み等その時の気持ちを優先にした流れになっています。	○	細かく見つけた時に、個別ケアと言う事に繋がるとは思いますが、認知症の高齢者が毎日今日は何をして過ごすか、今日は何処に行くか等と考える事は無いと思います、いかに毎日安心した気持ちで穏やかに、楽しく、自分らしさを出しながら皆と仲良く暮らせるかと言う事だと思います理想を掲げて大きな事を計画しても無理だと思いますその人の一言行動がすべてを教えて下さると思います
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的な事ですが毎日入浴、就寝時に寝巻きに交換、朝の更衣、汚染時の随時交換等、御家族にも相談なるべく明るい色の洋服をお願いしています。又ショッピングに出かけ御自分の好きな洋服を選んで頂いています。毎朝御自分で化粧をされる方もおられ、行き付けの美容院にいかれてます。その他の方はホームに美容師さんが定期的に来てくださっています(在宅で行き付けの美容師さんだった)		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様は皆さん三度の食事を非常に楽しみにされています。食事の時には皆さん本当に生き生きとした表情がみられます。職員がびつくりする程です。日々残存機能を活かし各々が出来る事を手伝って頂いております。又2ヶ月に一度食べたい物を伺って全員で少し遠出をし外食を楽しんでいます。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲まれる方は居られませんが、煙草を吸われる方がお2人居ますので見守りの中で自由に楽しまれています。煙草が無くなったら一緒に買いに出かけるなど、買い物をする事も楽しみになっているようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	当ホームの特徴の一つと考えますが、排泄ケアには力を入れて取り組んでいます。排泄チェック表を記録、パターンを掴み、可能な方はオムツから綿パンツへ移行、排泄の失敗が少なくなった、排便のコントロールが上手く行った等、会議の中にも常に排泄の課題が出てきます。気持ち良く暮らして行く為に、排泄は大きな課題だと思います。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴となっています。拒否される場合にはタイミングを見計って再度声掛けをする等、御本人のペースに合わせています。どうしても嫌がるような時には半身浴を行っています。	○	入浴に関しては職員の意見が大きく分かれています。ゆとりある業務の変更、ゆったりと入浴ができるようにしたい、入浴がコミュニケーションの場となっている等々、入居者様の中には毎日のように入浴を嫌がる方もいますが、御自分で排泄の後処理がきちんと出来ない方々ですので、感染症の予防を考慮、毎日お風呂に入っていただき衛生的である事が快適な暮らしに繋がると 생각합니다。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間の制限は殆どありません、朝等はゆっくりと休まれて朝食が9時、時には10時と言う事もあります。食堂で過ごされる事が多いですが、ちょっと眠ってこようねと、自由に自室に戻って休まれたりされています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能を活かし、出きる事(洗濯たたみ、もりつけ、下善、干し物、買出し等)を一緒に行っています。毎朝の散歩で外気に触れ、外の景色を楽しみ、歌って、話が盛り上がり、週1回のドライブや2ヶ月1回の外食等気分転換になっていると思います。閉じこもりにならないようなるべく外にお連れするようにしております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お2人の方が財布に現金を所持されています。一人の方はお守り代わり、使う事を好みません。眺めて安心されています。もう一人の方は入居以来6年余り毎週自宅へ戻り、帰りには決まったお小遣いをもらって1週間の間煙草、排泄用品、その他の物を購入する為出かける事を楽しんでおられます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外、多少寒くてもマフラーや重ね着をして、夏場は帽子を被ってほぼ毎日散歩に出かけています。入居者の皆様も外に出る事を楽しみにしているようです。その他毎週1回のドライブも「今日は遠足のようなだね」と言って喜んで下さっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回程、季節の変わり目にデパートや昔行った事がある那覇の市場等に出かけ(御家族同伴で行った事も有ります)ショッピングを楽しんでいます。好きな洋服を買って好きな食事をし、ご満足な様子が伺われます。	○	男性の入居者様が「闘牛大会を見に行ってみても良いねー」と何度か話されていたので御家族とも相談して実施に向けて検討したいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族へ電話をされる方は限られています、御自分で掛けるのを見守ったり、必要に応じて支援をしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	割合面会が多い方だと思います。常にオープンな雰囲気作りになっていると思われますし御家族も気軽に声を掛けて下さいます。	○	時には、週末御家族が泊まりに来て下さったりと言う事が起こったら素晴らしいと思います。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が身体拘束について理解をしており、開所当初から身体拘束の無いケアに取り組んでいます。	○	特例として、入居間もない方の長期に渡る不眠の解決に向け、専門医受診、安定剤の服用を開始している為、転倒が予測されるので御家族の同意を得て就寝中、肩センサーを使用している方がいます。(様子を見ながら約6ヶ月程の予定)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には夜間以外は鍵を施錠する事はありません。此れまで3人の方が自室の高窓から出て行く行為がありましたので窓を開けた時にセンサーがなるようになっていきます。その他に玄関と食道の2箇所に設置してあります。	○	入居者の安全を考えた時センサーはやむを得ないと思います。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	30分置きに夜間の巡視を行い、個別にチェック表を設置してあります。巡視の際もプライバシーに配慮しながら静かに安眠の妨げにならないようにしています。昼間でも職員間で声掛け、入居者様が居る事の確認をし安全確認を行っています。	○	それでも時々気が付かない内に外に出てしまったりと言う事が有ります。気を引き締め今後も入居者様が安全に暮らしていただけるように注意を払っていききたいと思います。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬は保管庫に入れ施錠をしています。包丁は入居者様の目に着かないよう高い位置に収納してあります。諸々の洗剤類は入居者様が入れないように保管場所を設け施錠をして管理しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・・・園内研修で疑似体験をし、高齢者がどのような身体状況であるかを知る、火災・・・年2回消火非難訓練を行っています。急変時の対応としては定期的に勉強会を持っています(救急法)	○	普段よくあるケースではないので、時々学習や訓練ではいざと言う時どれ力を出し切れるかと言う思いがあります。このような事が起こらないよう気を付ける事が大切だと思います。又学習は色々な情報をもらって継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上記に同じです。更に急変時対応マニュアルも作成し職員が対応し易いようにしています。	○	上記に同じです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の訓練は年2回行っていて、非難場所も把握していますが、水難、地震等の自然災害が起こった場合大変な混乱が生じると思います。夜間の火災を想定した訓練で、消防や地域の方職場に近い職員に自動的に連絡がいくようになっていきます。	○	特に夜間の災害が心配です。対応策を常日頃から意識していく必要があります。自治体での訓練や避難場所の説明等も必要になって来ると思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	実調のとき及び入居時のオリエンテーションで御家族の方には入居者に起こりうるリスクについて十分に説明をさせて頂き、理解を得るようにしています。行動に変化が見られた場合には御家族に報告をその都度行うようにしています。行動の制限はせずに見守りながら暮らして頂いております。	○	とても大切な課題です、何時何をされるか分からない認知症の方々、常に気を抜く事無く見守って行く事を忘れないよう職員が声を掛け合いお守りしていきたいと思っています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員一人一人がかなり高い意識をもってケアに当たっていると思います。毎朝のバイタルチェックでその日の状態を確認、毎日入浴で身体を観察できます、変化が観られたら速やかに御家族に報告し、施設で対応できる事は速やかに行い受診が必要な場合は早めに対応して頂く様御家族に以来、増悪の予防に努めています。	○	特養のように嘱託医がおられ何時でも相談に乗ってもらえる環境が出来ればと常々思います。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量についての理解は十分出来ていると思います。支援も確実に行っています、処方箋を見て副作用についてもある程度の理解はできていると思います。	○	薬の変更時等もっと詳細に伝えたいとおもいます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分、毎日の散歩、パワーリハビリ等体を動かす事を行い、食事管理栄養士の献立のもと調理となっている、便秘がちの方々には御家族と相談してオリゴ糖やプルーン等を摂って頂き予防に努めています。かかり付け医より緩下剤を処方されている方もいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず歯磨きを行っています。更に毎週1回超音波義歯洗浄器を使用義歯口腔内の清潔に十分な配慮を行っています。又摂食時の様子を見て変化があれば、口腔内の確認を行い、必要時には後家族に連絡歯科受診を促して早めに対応するようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の確認、チェック表に記録をしています。水分に於も食堂のテーブルには常にお茶が準備され何時でも飲んで頂けるようにしてあります。ほとんどの方が御自分で湯のみについて飲まれますので安心してます、個別対応で尿路感染症を起こし易い方は確実に1000ml以上飲んで頂くよう飲水量の測定を行っています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、嗽の励行を行っています。床や居室の清掃は希釈したカルキを使っています。食膳にお絞りを使用、毎食の口腔ケアの前にイソジンガーグルで嗽を行っています。毎年インフルエンザの予防接種も行って予防を図っています。マニュアルを作成何時でも参考できるようにしてあります。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場、調理器具は常に衛生を保っています。まな板、鍋、お盆等日光に当てたりの工夫をしています。食材も買出しに出かけ常に新鮮な物を使っています。必要時に生野菜は茹でてから使用するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やその周囲は段差も無く安全な環境であるが、初めて来居される方は玄関が分かりづらいと良く言われます。	○	皆さんが分かり易いように数箇所に看板を設置できるように業者さんに発注をかけています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にバリアフリーとなっています。立地が季節感を充分に感じられる場所になっています。可能な限り各居室に一輪のお花を生けて観賞して頂けるようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置、利用していただいています。談話室も設けて有りますが、殆どの入居者様は食堂が一番のお気に入りのようで、心地良い居場所になっているようです、就寝時以外自室に戻る事無く食堂で色々な会話が飛び交っていて楽しそうです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際病院から来られた方は馴染みの家具類はすでに処分されていたり、御家族に促しても持ってきてもらえなかったりする方もいます。中には在宅で畳の生活であった為床に畳を敷き詰めて穏やかに暮らしていただけるよう、その他の家具(ダンス、ドレッサー等)を運んで頂いている方もいます。可能な限りの工夫をしています。	○	知恵を出せばもう少し家庭的な雰囲気が出せるとおもいますので今後の課題にしたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は季節に関係なく常に喚起が充分に行われています。季節によって、利用者の状況に応じて室内の温度調整にも細かな配慮を行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーになっていて、必要な部分には手すりを取り付ける等安全暮らしていただけるよう工夫がなされています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には、分かりやすく、見易いように名前をつけてあります、トイレにも分かりやすく案内を掛けてあります。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	概観を充分に楽しんでいただけるように大きなウッドデッキが設置され、夏場は外でお昼のバイキング食を楽しんでいます。又外気に触れ毎朝散歩楽しむ事ができます。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム しらゆり)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしが閉じ困りがちにならないよう雨の日やよっぽど寒い日以外は毎朝の散歩を欠かさず行っています。おやつ持参で週1回(木)近場にドライブに出かけています。又2ヶ月に1回程食べたいメニューを伺って外食等を楽しんでおります。季節の変わり目に年2回少し遠出になりますが、那覇の市場やサンエー、ジャスコ等に好きな洋服や必要な物を購入に出かけています。3グループに分けて職員も一対一で対応出来、一緒に楽しむ事ができます。その他誕生会や可能な方は故郷訪問等も行っています。排泄の問題は直接日々の暮らしに大きな影響を与えてしまう事になるとおもいます。入居後排泄状況を観察、会議の中で話し合っ排泄チェック表を記録排泄パターンを掴みオムツから綿パンツへの移行したり就寝時のみリハビリパンツを使用、朝綿パンツに交換する等、又著しく排泄に問題のあった方のケースでは、ご家族と相談の上尿失禁外来の受診を依頼、ご家族、担当医と連携をとり指示のもと計画、実施する事で排便、排尿の問題を解決する事が出来現在穏やかに過ごして頂く事ができるようになっています。ご家族に関わっていただく事で入居者様の状態と一緒に把握できますので良かったと思います。グループホームで楽しく、末永く暮らして頂く為には健康でADLの低下及び、認知症の進行を予防するケアが大切だと思います、その為に日常生活リハは大きな基本になります、日々の暮らしの中で出来る事探しをし一緒に手伝っていただいています、更に週2回のパワーリハビリテーションで身体機能の低下を予防、学習療法を行う事で認知症の進行を少しでも予防できるような取り組みも行っています。その他毎食後の口腔ケアの他に週1回超音波義歯洗浄器を使用して口腔衛生に努めております。

記入日:平成20年2月25日